

生産高8%増、268億円 小椋組合長を再任 J A上士幌町

2022年6月10日(金)

【上士幌】J A上士幌町（小椋茂敏組合長、正組合員195人）の通常総会が8日、同J Aで開かれた。2021年度の農業生産額は畑作全般が良く、前年度比7.9%増の268億3,000万円と過去最高だった。総会後に理事会が開かれ、小椋組合長を再任した。

書面を含めて163人が出席。農産物は小麦などの品質が良く、初めて40億の大台を超え45億500万円（交付金含む）。生乳生産量は13万7,245トンで223億2,200万円だった。

購買部門は同9.3%増の65億円と過去最高。十勝ナイタイ和牛のブランド化や、黒毛和牛の改良促進を図り、受精卵移植の推進と畜産農家が事業に参加しやすい環境整備に努めた。

小椋組合長は「食料生産の道筋が安心して進められるように願っている。過去最高の生産額を達成して組合員の日々の努力に感謝」とあいさつした。

この他の新役員は次の通り。（敬省略）

▽専務理事＝大道欣実（新）

▽常務理事＝辺見仁（再）

▽理事＝高木茂、菅原彰、布谷知宏、嶋木勝美

（以上新）

高橋昭博、泉田和寛（以上再）

▽代表監事＝泉田吉徳（再）

▽一般監事＝西原正行（新）

▽員外監事＝猪狩敏勝

▽常勤監事＝松岡秀行

販売高過去最高 464億円 7年連続の大台突破 J A士幌町

2022年6月10日(金)

【士幌】J A士幌町（國井浩樹組合長、正組合員625人）の通常総会が9日、同J Aで開かれた。2021年の農畜産物販売高（交付金・共済金含む）は464億4,000万円（前年444億円）と過去最高を更新し、7年連続で400億円の大台を超えた。

書面議決書を中心に518人が出席した。畑作の販売高は127億8,000万円（同114億1,000万円）、畜産部門では牛乳98億8,000万円（同96億4,000万円）。酪農は粗飼料品質が良好で、生乳生産量は前年比4.8%増の10万1,967トンだった。

小麦は2015年に次ぐ高反収・高品質が得られ、ビートは収穫直前まで気温が下がらなかったため糖分は伸び悩んだが、原料反収・糖収量ともに過去最高の実績となっ

た。

I T（情報技術）化の推進、スマート農業への取り組みによる次世代型農業、電気の地産地消などを重点的に取り組んだ。

國井組合長は「組合員や農協との深い信頼関係によって、結集した総合力の成果が出て感謝している」とあいさつした。

取扱高最高140億円 事務所移転24年度に J A本別町

2022年6月11日(土)

【本別】J A本別町（佐野政利組合長、正組合員469人）は10日、町内の農協会館で通常総会を開いた。2021年度の農産・畜産両部門の総取扱高は過去最高となる140億5,673万円（前年度比10.4%増）を記録。任期満了に伴う役員改選では、総会後の理事会で佐野政利組合長を再任した。

また、23年度に実施予定だった本館事務所の移転新築を24年度に先送りする計画を発表。老朽化したAコープの在り方を含めて建設場所の検討が必要とした。

農産部門の取扱高は前年度比25.8%増の66億1,695万円（交付金含む）と大幅に伸びた。小麦が過去最高の反収（10アール当たり収量）を確保したほか、全体的に豊作傾向で取扱高を押し上げた。飼料作物は天候に恵まれ収量、品質ともに良好だった。

酪農・畜産部門は、生乳取扱量が5.8%増の4万4,855トンと増産したが、新型コロナウイルスの影響で初任牛などの市場環境が厳しく0.5%減の74億3,979万円にとどまった。

総会には本人、書面、委任状で323人が出席。佐野組合長は「組合員の営農と暮らしを守るというJ Aの原点に戻って事業推進に努めたい」とあいさつした。

その他の役員は次の通り。（敬称略）